

## 姨捨の棚田を見学に

塚田 修（9組）

9月13日（水）の昼、9組と7組の地元同期有志で千曲市姨捨の棚田見学をしました。当日参加者は私（塚田）と緑川英貞君、柳澤英明君、増澤賢一君（いずれも9組）と小山田秀士君（7組）の5名です。

緑川君の案内で、1時間ほど棚田を上から眺めたり散策したりして、日本の原風景を心に焼き付けました。その後、近くの日本遺産センター（旧姨捨観光会館）でイタリア料理のランチをいただき、引き続きすぐ側にある松尾芭蕉の「更級日記」ゆかりの長楽寺を拝観して楽しいひと時を過ごしました。

芭蕉の読んだ一句は “俳（おもかげ）や姨ひとりなく月の友”

以下、緑川君に姨捨棚田について寄稿してもらいました。

## 姨捨棚田の米作り

緑川英貞（9組、科野農業塾会長）

姨捨の棚田は16世紀半ばに造られ、善光寺平を一望する標高460mから560mに至る面積約40ha、約1500枚の棚田から成っています。

姨捨の棚田は「日本の棚田百選」「重要文化的景観」に選定されました。

また、令和2年には「月見」を主題とした「月の都千曲」として「日本遺産」に認定されました。私は現在、科野農業塾の会長をしています。同塾は平成15（2003）年4月に発足し、今年で20周年になりました。

棚田の米作りのきっかけは、棚田を散歩した時、荒廃した休耕田が林となっている姿でした。そこで、休耕田を借り、復旧活動を開始し現在に至っています。

会員19名、平均年齢70代、耕作面積30アール、棚田枚数30枚です。

高齢化による後継者問題はありますが、“おいしいお米”と“すばらしい景観”の姨捨棚田を出来るかぎり守っていきたいと思います。

（2023年10月3日記）

《次ページに写真3葉》

姨捨棚田



左から柳澤、塚田、増澤、緑川（棚田をバックに）



左から塚田、小山田、増澤、緑川  
（長楽寺にて）

以上